

## 検査項目のご案内

当院検査項目のご案内です。この説明は一般的な内容ですので、すべての患者様に当てはまるものではありません。また、基準値は個人差・性別・年齢・季節・食事・運動などさまざまな要因で変化するものもあります。ご不明な点がございましたら担当医師までおたずねください。

略名	名称	参考基準値		単位	この検査でわかること
		男性	女性		
<b>生化学検査</b>					
CK	クレアチンキナーゼ	61-265	49-189	IU/l	筋肉や脳に含まれる酵素です。心筋梗塞やけいれんで値が高くなりますが、運動後でも高くなります。
CK-MB	クレアチンキナーゼアイソザイムMB	4-16		IU/l	CKのうち心筋に由来する酵素で、心筋梗塞の診断や経過観察の指標となります。
AST(GOT)	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ	13-37		IU/l	肝臓や心筋の細胞に含まれる酵素で、肝臓の状態を敏感に反映します。心臓の病気でも高くなります。
ALT(GPT)	アラニンアミノトランスフェラーゼ	8-45		IU/l	肝臓に多く含まれる酵素です。肝臓や胆管などの疾患の指標となります。
LDH	乳酸脱水素酵素	122-228		IU/l	肝硬変、心筋梗塞、白血病、癌など、さまざまな疾患の状態をほかの検査と合わせてみます。
ALP	アルカリフォスファターゼ	118-335		IU/l	肝臓でつくられる酵素で、肝臓や胆のうなどの状態を敏感に反映します。成長期の子供や骨折後でも高値となります。
CHE	コリンエステラーゼ	206-477		IU/l	肝機能検査のひとつで、肝疾患の重症度をみる目安となります。
-GTP	ガンマーグルタミルトランスアミノターゼ	12-49	8-33	IU/l	肝臓に多く含まれる酵素で、肝臓の障害の程度の指標となります。飲酒の習慣があると高値となります。
AMY	アミラーゼ	46-133		IU/l	膵臓や唾液腺に含まれる酵素で、これらの病気の診断や経過観察の指標となります。
TP	総蛋白	6.7-8.3		g/dl	血液中に含まれているタンパクの総和です。栄養状態や脱水の有無など、体の状態をみるために検査します。
ALB	アルブミン	4.1-5.2		g/dl	TPの60%を占めるタンパク成分で肝臓でつくられます。栄養状態や肝機能をみるために検査します。
A/G	アルブミン・グロブリン比	1.26-2.25		***	タンパク成分のアルブミンとグロブリンの値を比べたものです。ほかの検査と合わせて肝臓や腎臓の状態をみます。
T-BIL	総ビリルビン	0.3-1.3		mg/dl	赤血球中のヘモグロビンからできる成分です。肝臓や胆のうの疾患を調べたり、黄疸の有無や種類を判別するために検査します。
D-BIL	直接ビリルビン	0.1-0.3		mg/dl	
BUN	尿素窒素	7.8-18.9		mg/dl	腎機能をみる検査のひとつで、腎機能障害の程度、タンパク質や水分の摂取状況を確認するための検査です。
CRE	クレアチニン	0.64-1.11	0.45-0.82	mg/dl	腎機能をみる検査のひとつで、腎機能障害の指標となります。
UA	尿酸	3.0-7.0	2.5-5.8	mg/dl	腎機能をみる検査のひとつで、痛風の指標となります。
Na	ナトリウム	138-146		mEq/l	
K	カリウム	3.6-5.1		mEq/l	体内の水分バランスをみる検査です。むくみや脱水、嘔吐したときなどに検査します。
Cl	クロール	99-108		mEq/l	
Ca	カルシウム	8.7-10.3		mg/dl	体内の重要なミネラルで、骨や副甲状腺の状態を知るために検査します。
IP	無機リン	2.9-4.9		mg/dl	Caと密接な関わりがあり、腎機能や副甲状腺の状態を知るために検査します。
T-CHO	総コレステロール	130-219		mg/dl	血液中に含まれている脂質の総和で、値が高くなると動脈硬化や高脂血症の危険性が高くなります。
TG	中性脂肪	33-149		mg/dl	体を動かすエネルギー源となりますが、値が高くなると動脈硬化の危険性が高くなります。食後に値が高くなります。
HDL-C	HDLコレステロール	40-70		mg/dl	いわゆる善玉コレステロールです。値が低いと動脈硬化の危険因子となります。
LDL-C	LDLコレステロール	63-139		mg/dl	いわゆる悪玉コレステロールです。値が高いと動脈硬化の危険因子となります。
CRP	C反応性蛋白	<0.3		mg/dl	体の中に炎症がないかどうか、また炎症がある場合は程度がわかります。
GLU	血糖	70-110		mg/dl	生きていくための重要なエネルギー源です。糖尿病の診断や経過観察のために検査します。食後に値が高くなります。
HbA1c	グリコヘモグロビンA1c	4.3-5.8		%	1~2ヶ月前の血糖値をよく反映します。糖尿病治療の効果をみるために検査します。

静岡徳洲会病院 検査科

略名	名称	参考基準値		単位	この検査でわかること
		男性	女性		
<b>尿検査</b>					
尿一般定性検査	***	***	***	***	尿中に糖やタンパクなどさまざまな成分が出ているかどうかを検査することによって、腎臓や尿路系の病気を調べます。
尿沈渣	***	***	***	***	尿中の成分を顕微鏡で観察し、腎臓や尿路系の病気の有無や程度を調べます。
<b>血液検査</b>					
WBC	白血球	4000-10000		/ul	血液細胞のひとつです。熱が出たときなど炎症をおこしているときや白血病などで高値になります。
RBC	赤血球	438-577	376-516	$\times 10^4$ /ul	血液細胞のひとつです。酸素を全身に運ぶ働きがあります。貧血や多血症の有無や程度をみるために検査します。
Hb	ヘモグロビン(血色素)	13.6-18.3	11.0-18.0	g/dl	赤血球に含まれている赤い色素です。酸素を運び、貧血で低くなります。
Ht	ヘマトクリット	37.0-54.0		%	血液中に含まれる赤血球の割合をあらわしたものです。貧血の有無や程度をみるために検査します。
MCV	平均赤血球容積	82-101		fl	赤血球数、ヘモグロビン量、ヘマトクリット値から計算したものです。貧血の種類を知ることができます。
MCH	平均赤血球ヘモグロビン量	27.0-34.0		pg	
MCHC	平均赤血球ヘモグロビン濃度	31.0-36.0		%	
Plt	血小板	15.0-35.0		$\times 10^4$ /ul	血液細胞のひとつです。出血を止める働きがあり出血性や凝固性の病気の診断に用います。
Neutro	好中球	43.0-75.0		%	白血球は、好中球・リンパ球・単球・好酸球・好塩基球の5つに分類することができます。これらは病気によってそれぞれ違った増減の仕方をします。それを調べることにより病気の診断の手がかりとなります。
Lympho	リンパ球	25.0-45.0		%	
Mono	単球	3.0-7.0		%	
Baso	好塩基球	0-1.0		%	
Eosino	好酸球	1.0-3.0		%	
<b>凝固機能の検査</b>					
PT(INR)	プロトロンビン時間INR	0.84-1.14		***	出血したときの血液の固まりやすさを見る検査です。手術などで大量出血する前に検査したり、出血性の病気を調べるために検査したり、脳梗塞や心筋梗塞の原因となる血栓を予防する薬(ワーファリンなど)の治療効果をみるために検査します。
TTO	トロンボテスト	>70		%	また肝臓で作られるので肝臓の機能をみる時にも検査します。
APTT	活性化部分トロンボプラスチン時間	25.2-40.0		秒	血液を凝固させる因子のひとつです。凝固機能が正常に働いているかをみるために検査します。
Fib	フィブリノーゲン	146-380		mg/dl	炎症の有無や程度をほかの検査と合わせて総合的に判断するために検査します。
ESR	赤血球沈降速度(1時間値)	2-10	3-15	mm	
<b>感染症の検査</b>					
HBs-Ag	HBs抗原	(-)		***	B型肝炎ウイルスに感染しているかどうかを調べる検査です。
HBs-Ab	HBs抗体	(-)		***	
HCV-Ab	HCV抗体	(-)		***	C型肝炎ウイルスに感染しているかどうかを調べる検査です。
TPHA	梅毒抗体	(-)		***	梅毒に感染しているかどうかを調べる検査です。
RPR	脂質抗原	(-)		***	
HIV	HIV免疫不全ウイルス	(-)		***	
<b>ホルモン</b>					
TSH	甲状腺刺激ホルモン	0.49-4.67		uIU/ml	いわゆる甲状腺ホルモンです。バセドウ氏病や橋本病など甲状腺の病気の診断や治療効果をみるために検査します。
FT3	遊離トリヨードサイロニン	1.45-3.48		pg/ml	
FT4	遊離サイロキシン	0.71-1.85		ng/dl	
<b>腫瘍マーカー</b>					
CEA	癌胎児性抗原	5.0		ng/ml	消化管のがんや肺がんなどの腫瘍マーカーです。良性の腫瘍の場合でも高値となることがあります。
PSA	前立腺特異抗原	4.0		ng/ml	前立腺がんの腫瘍マーカーです。前立腺肥大症でも高値となることがあります。